



肺がん手術における胸腔鏡下手術の割合

<項目解説>

胸腔鏡下手術とは、「CCD」と呼ばれるカメラで体内の様子を見ながら行う手術のことを言います。この術式は開胸術と比べて非常に小さな創で済み、痛みが少なく、患者さまの早期回復が期待できます。

<当院の実績>

【平成25年度】	91.9%	(68/74)
【平成26年度】	91.9%	(57/62)
【平成27年度】	97.3%	(72/74)
【平成28年度】	98.5%	(67/68)
【平成29年度】	92.7%	(62/65)

<当院の自己点検評価>

肺がん手術件数は毎年50件以上の実績があり、胸腔鏡下手術の割合は約9割前後で推移しています。リンパ節転移・浸潤などの進行した肺がんの場合や胸腔内に高度の癒着がある場合は胸腔鏡手術の適応とはならないため、開胸手術を実施する場合があります。

今後も患者さんの状態に応じた手術を行い、早期回復と在院日数の短縮に向け、技術の向上による安全な医療を提供できるよう心掛けていきます。

<定義>

- ・肺がんに対して施行された手術の算定件数
- ・原発性肺がんのみ、転移性肺がんを除く

胸腔鏡下手術 K514-2

開胸手術 K514

<算式>

分子：胸腔鏡下手術件数

分母：胸腔鏡下手術件数 + 開胸手術件数